JBグループ
CSRレポート2016

JBCCホールディングス株式会社

ＣＯＮＴＥＮＴＳ

トップメッセージ　・・・・・・・・・Ｐ３
基本理念　・・・・・・・・・Ｐ４
　実施方針
　環境方針
活動にあたって　・・・・・・・・・Ｐ５
　３つの活動分野
　推進体制
事業活動を通じた活動　・・・・・・・・・Ｐ６～７
　Ecoシステム･クラウドサービス
　ヘルスケア
　セキュリティ
　３Ｄ事業
企業市民としての活動　・・・・・・・・・Ｐ８～１３
　2015年度 活動内容と実績
　地域・社会とともに
　社員とともに
マネジメント　・・・・・・・・・Ｐ１４～１５
　コーポレート・ガバナンス
　内部統制
　リスク管理体制
　情報セキュリティの取り組み
　ISO14001認証取得
株主・投資家の皆さまとともに　・・・・・・・・・Ｐ１６
社員とともに　・・・・・・・・・Ｐ１７
ＪＢグループについて　・・・・・・・・・Ｐ１８
　会社概要
　主なグループ会社
　主な３つの事業
　業績　・・・・・・・・・Ｐ１９
編集方針／報告範囲

トップメッセージ

ＪＢグループは、
ベスト・サービスカンパニーとして
よき企業市民を目指し、社会および環境との調和を図ります

ＪＢグループは、経営のビジョンとして「社会、お客様、株主、社員と感動を共有し、信頼されるグローバルなベスト・サービス・カンパニーを目指す」ことを掲げるとともに、「よき市民を目指し、社会及び環境との調和を図る」ことをＣＳＲの基本理念としています。

それらを支える行動規範として、自らベストを考え、自ら行動をおこす「自らマインド」をベースとし、「ＪＢグループ行動基準」を制定しております。

これらの基本方針の実行を通じて、グループ会社が連携し社員が一丸となって、お客様満足度の向上と企業価値の最大化、社会への貢献を目指しています。

ＣＳＲは、「事業活動を通じた活動」「企業市民としての活動」「マネジメント」の３つの分野で活動しており、2015年度は“全員参加のＣＳＲ”をキーワードとして、環境、ボランティア、広報に注力した活動を行ってまいりました。

今後もよき企業市民として、社会への貢献、環境保全活動を積極的に推進し、社員が一丸となって活動してまいります。

一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ＪＢグループ
ＪＢＣＣホールディングス株式会社
代表取締役社長
山田隆司

基本理念

ＪＢグループ Ｖｉｓｉｏｎ

社会、お客様、株主、社員と感動を共有し、信頼される
グローバルなベスト・サービスカンパニーを目指します。

ＣＳＲ 基本理念

ＪＢグループはベスト・サービスカンパニーとして
よき企業市民を目指し、社会および環境との調和を図ります。

実施方針

（1）　法令・規制を遵守し、お客様との約束を守り、高水準の倫理を保つ。
（2）　常に最新のＩＴに挑戦し、自らマインドによる開発、自社活用、お客様への提案・提供により、日本のＩＴ活用の促進に貢献する。
（3）　グローバルな視野を持つよき企業市民として、社会への貢献、環境保全活動を積極的に行う。

環境方針

ＪＢグループは、お客様の情報システム・ネットワークに関するコンサルティングから、構築・運用・保守・アウトソーシングまでトータルなサポート＆サービスを提供する企業として「ベスト・サービスカンパニー」を目指しており、地球環境の保全と改善および汚染の予防に向けた取り組みを継続的に推進します。

1．お客様の環境負荷低減に向けて、以下の活動を積極的に推進します。
- 環境に配慮した商品・サービスの提供
- カーボン・オフセット

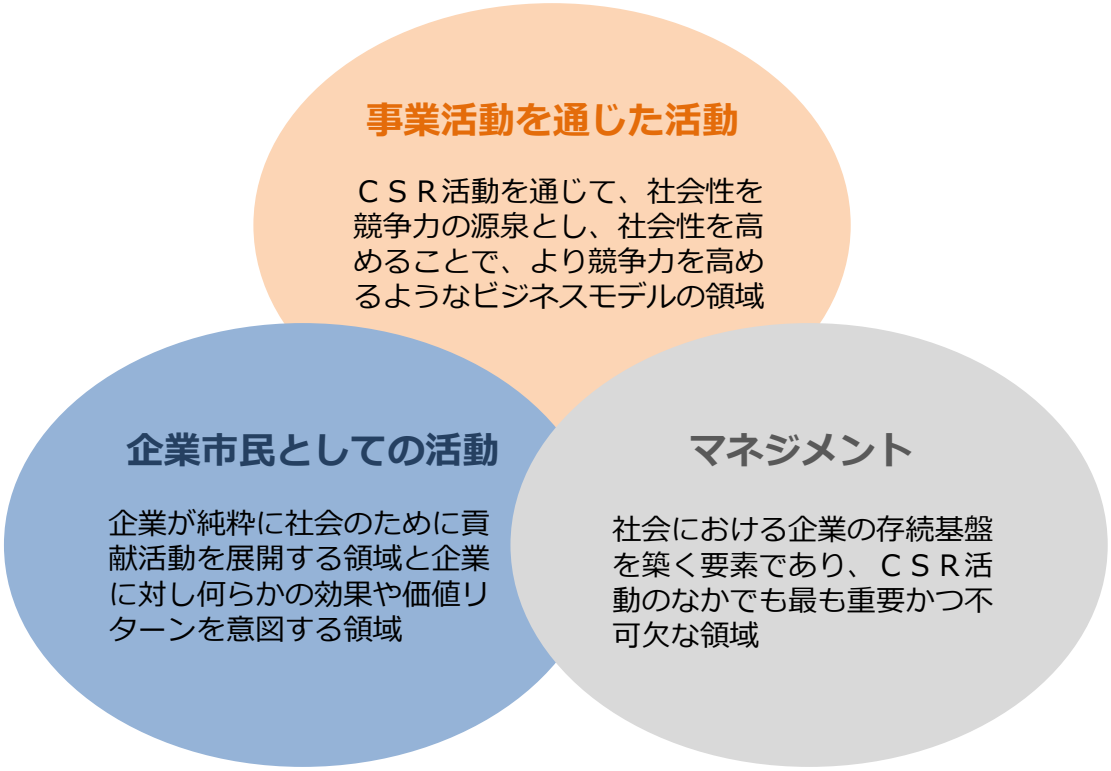
2．ＪＢグループ内の事業活動により排出する温室効果ガスを削減するために、以下の活動を推進します。
- 業務の効率化を図る活動の推進
- 事務消耗品のグリーン購入推進と購入量抑制
- 廃棄物の分別推進による資源化促進と廃棄量削減
- 電気使用量の削減
- その他エネルギーの使用量削減
- Fun to Share宣言と活動

3．砂漠緑化活動により地球環境の再生に積極的かつ継続的に取り組みます。
4．環境関連法令並びに自治体、関係団体、お客様、その他の諸要求事項を順守し、環境マネジメントシステムを維持し、定期的見直しと継続的改善に努めます。
5．この環境方針は、組織構成員全員に周知徹底するとともに、社員がいつでも閲覧できるようにします。さらに、外部に対しては、ホームページ等に掲載することにより公開します。

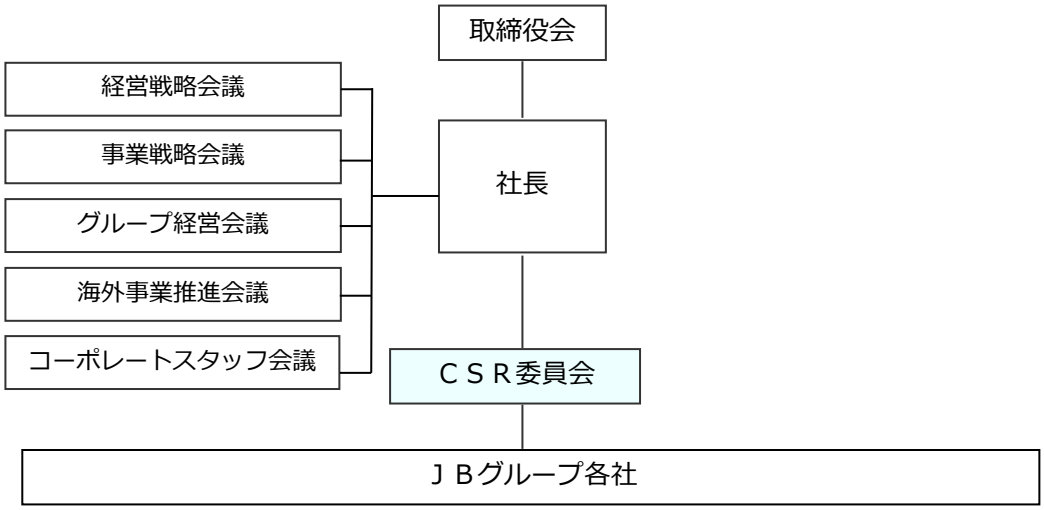
活動にあたって

ＪＢグループでは、「事業活動を通じた活動」、「企業市民としての活動」、「マネジメント」の主に３つの分野で活動しています。ＣＳＲ委員会では、グループ全体でＣＳＲの推進計画を審議するとともに、その進捗を管理しています。

３つの活動分野



2015年度 推進体制　2016年３月31日現在



＊ＣＳＲ委員会では、推進担当者が定期的に委員会を実施し、グループ全体で活動内容や進捗を管理しています。

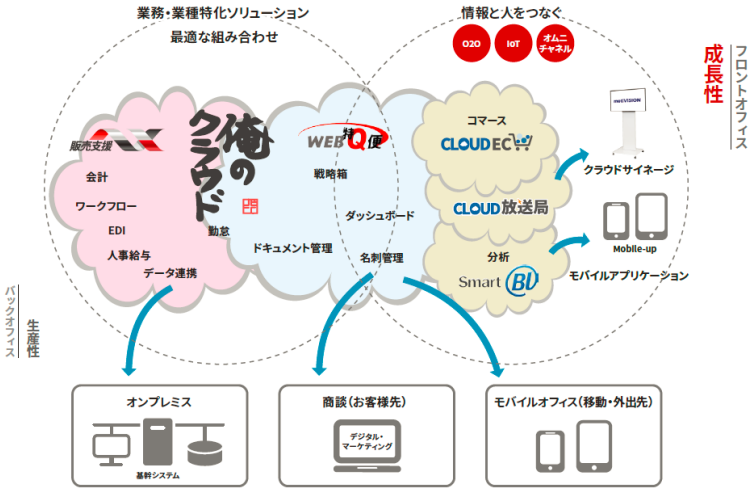
事業活動を通じた活動　お客さまとともに

Ｅｃｏシステム・クラウドサービス

●人と情報をつなぐ　**“俺のクラウド”** Ｅｃｏシステム・クラウドサービス

”俺のクラウド”は、情報と人をつなぎ、お客様の成長を支援するために、ＪＢＣＣのソリューションと業種や業務に特化したパートナー各社のソリューションを連携させ、お客様に最適なクラウドサービスとしてお届けするサービスです。

クラウド基盤にはＡＷＳ(Amazon Web Services）などを活用し、成長性を支えるフロントオフィスからビジネスを支える業務まで、お客様のニーズに合わせてクラウドサービスを組み合わせ、使いやすく、安全・安心なクラウドソリューションを提供しています。

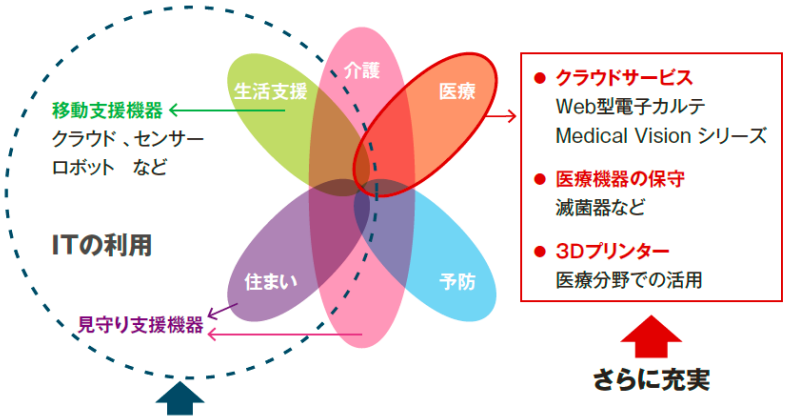


“俺のクラウド” Ecoシステム・クラウドサービス
2015年度末までの契約数　493社(792件)

ヘルスケア

●地域包括ケアシステムの実現に向けて

ＪＢグループでは、電子カルテ／医事会計を中心とする病院情報システムの提供から、セキュリティ・運用保守まで総合力を活かしたＩＴ活用を提案しています。



ＪＢＣＣの「患者様へのサービス向上」、「病院経営の強化」、「オープンなシステム」をコンセプトとした

Medical Vision 導入実績400施設以上
（2016年3月現在）

また、地域包括ケアシステムの実現に向け、ソリューションの開発を進めています。地域連携・往診・在宅診療などの必要なニーズをＩＴを活用してつなぎ、各種サービスを安心して受けられる社会の実現をめざしています。

JBHC

ＪＢＣＣヘルスケア・コンソーシアム

ＪＢＣＣと医療・ヘルスケア分野に関連した優良企業が設立した企業連合。単独では解決できない病院業務全般の課題を総合的に対応しています。

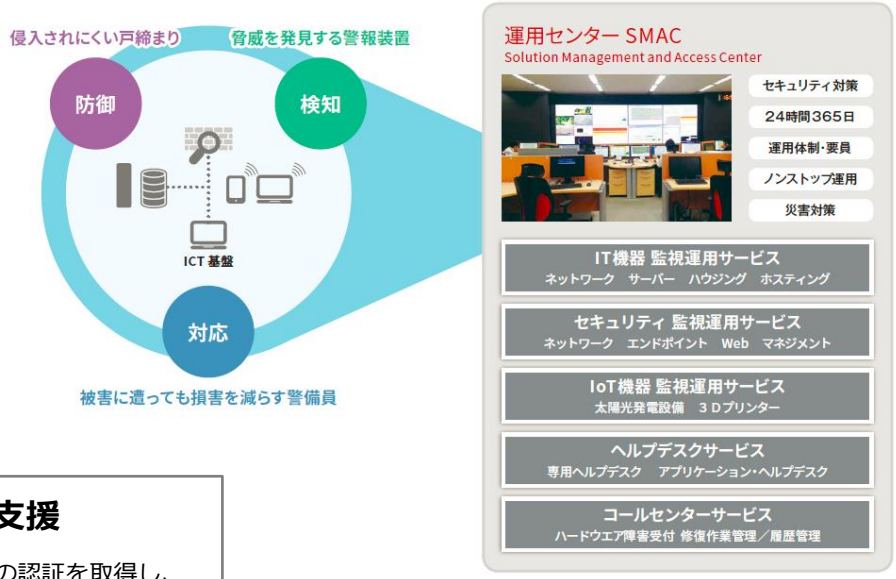
事業活動を通じた活動　お客さまとともに

セキュリティ

●セキュリティ対策への取り組み

ＪＢグループでは、運用センターSMAC（Solution Management and Access Center）で、24時間365日体制でお客様のIT環境を支援しています。

東京、大阪の2箇所のSMACにSOC(Security Operation Center：セキュリティ対策システムに特化した運用センター）機能を新たに追加しました。近年、その手口が高度化する標的型攻撃への対応や、マルウェアの分析等、セキュリティ技術の強化に取り組んでいます。



高品質な体制で事業継続を支援

運用センターSMACは、2つの国際規格の認証を取得し、ITIL準拠の高品質なサービス提供と情報セキュリティレベルの維持・向上に取り組んでいます。
このような高品質なＩＴ運用と情報セキュリティを兼ね備えた体制を関東・関西2箇所のSMACで二重化し、災害時等でもお客様の事業継続を支援します。

[認証取得]　SMAC東京／大阪、
中部／西日本サービスデスク

ITサービスマネジメント　情報セキュリティマネジメント

JQA-IT0030　JQA-IM0148

パートナー企業と連携

ＪＢグループでは、様々なパートナー企業と連携を図り、セキュリティへの取り組みを行っています。
2015年度には、世界トップレベルのセキュリティ・リサーチ・チームを擁するＦＦＲＩと協業し、セキュリティ技術の強化、ノウハウの共有、セキュリティ対策サービスの拡充を進めてきました。
今後も、パートナー企業と連携を図り、日々進化する外部からの脅威に対応していきます。

3D事業

●３Ｄプリンターの新たな活用を創出

ｉＧＵＡＺＵは、川崎事業所にビジネスパートナー様向けの3D Systems社製品ショールームを構え、その販売・保守を通じて、開発・研究機関、学校、病院、その他様々な分野に幅広い３Ｄプリンターの活用を提案しています。

急速な３Ｄ市場の拡大に向け、クラウドを利用した３Ｄデータ提供サービス等、新たなソリューションの創出と、それを支える３Ｄ技術者の育成にも取り組んでいます。

川崎事業所内３Ｄショールーム

企業向け３Ｄプリンターと精巧な造形物

２０１５年度 活動内容と実績

活動テーマ：『全員参加のＣＳＲ』　～その気になってまず一歩！～

2015年度のＣＳＲ委員会では、企業市民としての活動にあたり、環境・ボランティア・広報活動を中心に少しずつ広がってきた活動をグループメンバーが”その気になって”取り組めるよう、計画・実施してまいりました。

活動内容	実績

●環境活動

ＩＳＯ１４００１	国内の事業会社が77組織に分かれて活動、２月定期審査により認証の継続 ＪＢＣＣホールディングス、ＪＢグループ１０社、外部定期審査に合格 ・紙（コピー用紙）848万枚　（前年比－17万枚） ・電気（使用量）313万8千ｋｗｈ　（前年比-28万9千ｋｗｈ） ・一般ゴミ（分別状況）分別の徹底100%
緑化活動①（ホルチン）	ＪＢＣＮ中心にホルチン緑化隊の実施（８月）
Fun to Share（※１）	グループ2,300名（94%）が参加、各自の目標実績をＷｅｂ上で登録・管理
グリーン購入	グリーン購入率70%目標達成

●ボランティア活動

被災地支援 ①森の長城プロジェクト参画	宮城県岩沼市(5､10月)､福島県南相馬市(7月) 主な活動：植林植樹準備、植樹、後片付け、草抜き
被災地支援② 特産物購入	福島応援隊(購入支援)　桃など(７月)、リンゴなど(11月)　延べ146箱の協力
ボランティア活動支援	ボランティア休暇制度と活動支援金制度推進（被災地支援で利用者増）
地域貢献	清掃活動　横浜山下公園、事業所周辺（札幌、新子安、新宿、福岡、八幡　等）
	地域活動　植樹、祭り等イベント参加、水撒き、プログラミング教室等 多数
	その他　古切手寄付、古本寄付、点字名刺の作成発注、献血、古着回収＆寄付、傘寄付、福祉施設へのカレンダー寄付、福祉施設からの物販品購入、使用済PC寄付等
エコキャップ活動	回収活動の継続　（約１年で　CO2削減1,337kg、ワクチン212名分）
障がい者支援	関東車椅子バスケットボール連盟支援（寄付＆大会運営支援ボランティア）ほか
寄付活動	ネパール地震義援金、森の長城プロジェクト寄付、ホルチン緑化募金、ユニセフ外貨コイン募金　ほか

●広報啓発活動

ＣＳＲレポート	５月発行（ホームページに掲載）
Ｌｉｎｋ、株主通信	情報誌Link、株主通信にてＣＳＲ活動の一部をご紹介
ホームページ、会社案内	社会・環境活動（ＣＳＲ）、活動実績の適宜更新
Ｊ－Ｔｏｗｎ　（※２）	コミュニティの活性化（ボランティア情報交換広場、その他）ホルチン緑化隊活用
Ｊ－ＳＯＵＮＤ（※３）	Web：私の社会貢献への掲載　冊子：活動トピックス紹介

（※１）「低酸素社会実現のために、最新の知恵をみんなで楽しくシェアしよう」と呼びかける国民運動です。（2014年12月まではチャレンジ25として活動）JBグループはその主旨に賛同し､2010年よりＣＳＲ活動の一環として全社員で活動を行っています。

（※２）ＪＢＣＣホールディングス(株)が運営する社内ＳＮＳ(ソーシャルネットワーキングサービス)で､ＪＢグループのコミュニティサイトとしてメンバー同士で積極的に意見交換するツールとして活用しています。

（※３）ＪＢグループの社内報として、年3回の冊子発行に加えて、Ｗｅｂ版社内報を随時更新しています。

企業市民としての活動　地域・社会とともに

ＪＢグループでは、東日本大震災に対する被災地復興のために、さまざまな支援活動を継続して行っています。

被災地支援 －森の長城プロジェクト

ＪＢグループでは、『森の長城プロジェクト(※)』に賛同し、この団体が 企画する植樹活動に参加しています。2015年度も、ＪＢグループ社員からの参加を募り、東日本大震災被災地での復興支援ボランティア活動を３回実施するとともに、寄付金による支援も昨年に続き行いました。

【 2015年度の活動】宮城県岩沼市(千年希望の丘)、福島県相馬市

5月

第1回　5/28～30（岩沼市）
植樹事前準備、植樹及び草抜き活動
27名参加

重労働ですが、声を掛け合いながらチームで作業

7月

第2回　7/2～4（相馬市）
福島県相馬市での初めて植樹、後片付け
19名参加

10月

第3回　10/15～17（岩沼市）
ＪＢグループ単独で1,000本の植樹
事前準備から後片付け、草抜き活動
43名参加*
*JBCCのお客さまも一緒に参加いただきました。

慰霊碑
モニュメント最頂部
が津波到達点

Voice ―参加メンバーの気づき

今回、あらためて驚いてしまったのは津波の高さでした。聞いていたつもりでも、モニュメントの一番てっぺんがその高さで約８メートルになるということには驚きました。

草抜きが一番の重労働ですが、キレイになったのを見ると達成感が湧いてきます。以前に植樹した苗木の成長を見るのが楽しみになってきました。

(※) 森の長城プロジェクト
公益財団法人瓦礫を活かす森の長城プロジェクト元総理大臣 細川護熙氏を理事長とし、瓦礫を活かして常緑広葉樹の防潮堤を作り、津波から命を守ることを広く推し進めている活動団体です。東日本大震災で被災した青森県から福島県までの沿岸の範囲で、震災で発生した瓦礫と土を混ぜて森土を築き、その上にシイ・タブ・カシなどの常緑広葉樹を植樹。成長と共に瓦礫を抱いて地中深くまで根を張ることで津波で倒れることのない「いのちを守る森や防潮堤」を築いていくことを目指しています。

GREAT FOREST WALL PROJECT

被災地支援 －福島応援隊支援

「地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会（地産地消ふくしまネット)」が展開する“県産のくだものなどをギフトに利用”できる「福島応援隊」の取り組みに協賛しています。 2011年度より、夏冬２回の購入支援を実施しており、これまでに延べ341名の社員が協力しています。2015年度までに、計532箱の旬の味を購入しました。

企業市民としての活動　地域・社会とともに

ＪＢグループでは、環境保全・社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

緑化活動

●ホルチン砂漠緑化活動

(※) 日本から1500kmの中国の内蒙古自治区に位置し、砂漠の面積はおよそ42,300㎢といわれています。砂漠の砂は偏西風に乗り、「黄砂」として日本にまで運ばれてきます。

中国内モンゴル自治区に広がるホルチン砂漠 (※) は、人の手による開墾や放牧によって砂漠化が進みました。その地に再び緑を！を合言葉に2004年度より植林とそれを維持管理する緑化活動がスタートしました。植林した一帯を「ＪＢグループ希望の森」と名づけ、2015年度には新たに2haの植林を行い、これまでに34ha（東京ドーム7.2個分）に拡大しています。
今年度も、中国に拠点のあるＪＢＣＮの大連・上海・広州メンバーを中心に緑化活動を実施しました。
8/21～8/24　10名 参加

１５４５㎡のポプラ下枝剪定作業をしました

力をあわせてバケツリレー

Voice ―参加メンバーの気づき

現地での作業は大変でしたが、楽しかった。
来年も来ます。

２年前に参加した時より、緑があることを実感しました。
これまでの努力を感じます。

毎日息子に写真をメールしました。多くの
子どもたちにもこの活動を知ってもらいたい。

今回もとても楽しかった。
友人たちに活動を広めたいです。

情報発信に伴う、環境への配慮

ＪＢグループでは、ＭＣＰ(※) 印刷を通じ、インドネシア・バリ州の森林再生事業（国定公園内の植樹 3,000本）に参加しています。
会社案内や定期的に発行している、お客さま向け情報誌Linkなどの冊子には、MCP印刷を採用しています。
2015年度は、666.68kg削減しました。

会社案内

情報誌Link

(※)ＭＣＰとは、マイナスカーボン・プリンティングシステムによる、印刷を通じて、印刷プロセスで使用するアルミ板をリユースすることで、CO2排出量の削減に貢献しています。

企業市民としての活動　地域・社会とともに

ＪＢグループでは、地域・社会とともに社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

障がいのある方等への支援

●関東車椅子バスケットボール連盟への協賛

ＪＢグループは2014年度より、2020年開催の東京パラリンピック出場を目指し選手強化を図っている、関東車椅子バスケットボール連盟に協賛しています。この団体には、Ｃ＆ＣＢＳに勤務する社員２名が所属するチームも加盟しています。2015年度は、ＪＢグループ社員がボランティアスタッフとして関東近郊だけでなく、名古屋・九州など各地で行われた一部大会運営のお手伝いをしました。

１月には横浜で２日間にわたる全国大会の本格的な運営サポートと応援を実施し、連盟より感謝状を頂戴しました。

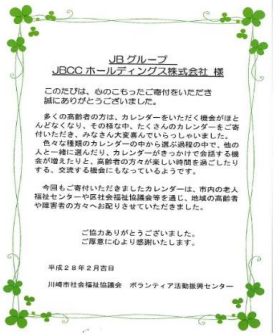
感謝状

●社会福祉施設への協力

ＪＢグループの各社が拠点を置く、川崎･蒲田事業所では、地域の障がい者福祉施設で作られたお菓子等の販売機会を定期的に提供しています。また、ＪＢグループでは障がい者施設で栽培・製作された胡蝶蘭の購入や、点字名刺制作の発注を通じて、障がいのある方の雇用就労の場の確保と所得向上を目指す活動に協力しています。

●福祉施設へのカレンダー寄付

ＪＢグループの各社､各事業所より使用していないカレンダーを集め、壁掛け･卓上合わせて５００本を社会福祉協議会等に寄付しました。各地の寄付先からは、感謝の気持ちを込めたお礼状をいただきました。


JB グループ
JBCC ホールディングス株式会社 様

このたびは、心のこもったご寄付をいただき誠にありがとうございました。

多くの高齢者の方は、カレンダーをいただく機会がほとんどなくなり、その様な中、たくさんのカレンダーをご寄付いただき、みなさん大変喜んでいらっしゃいました。
色々な種類のカレンダーの中から選ぶ過程の中で、他の人と一緒に選んだり、カレンダーがきっかけで会話する機会が増えたりと、高齢者の方々が楽しい時間を過ごしたりする、交流する機会にもなっているようです。

今回もご寄付いただきましたカレンダーは、市内の老人福祉センターや区社会福祉協議会等を通じ、地域の高齢者や障害者の方々へお配りさせていただきました。

ご協力ありがとうございました。
ご厚意に心より感謝いたします。

平成２８年２月吉日
川崎市社会福祉協議会　ボランティア活動振興センター

日経「星新一賞」への協賛

ＪＢＣＣホールディングスでは､理系文学賞である、日経「星新一賞」のコンセプトに賛同し、2014年の賞の設立から継続して協賛しています。2016年3月には第３回受賞作品が発表され、相川啓太さん（作品：「第37回星新一賞最終審査ーあるいは、究極の小説の作り方ー」)が一般部門の優秀賞(ＪＢＣＣホールディングス賞)を受賞されました。

理系的発想力を問う文学賞
日経 星新一賞

ショートショートの神様といわれ、自由な発想の作品で知られる星 新一氏の文学賞。形式等にとらわれない発想力、想像力に満ちた物語を募集してます。
公式サイト：http://hoshiaward.nikkei.co.jp/

企業市民としての活動　地域・社会とともに

ＪＢグループでは、地域・社会とともに社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

地域活動

●子供向けプログラミング教室を開催

i－Ｌｅａｒｎｉｎｇは、～プログラマーへの第一歩を踏み出そう！～と題し、子供たち向けにプログラミング教室を10-11月にかけて計４回実施しました。スマホを活用したロボット「Romo」や、図形を組み合わせてできる「Scratch」を使用し、プログラミングを通じて、ものづくりの楽しさを伝えました。

Romo

●古着の寄付

ＪＢＡＴは古着167着を11～１２月で回収し、海外途上国へ物資支援を行いました。

●使用済み切手の寄付

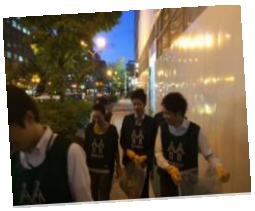
ＡＡＣ、ＣＩＳ、ＧＢＳ、ＳＯＬＮＥＴは使用済みの切手を集め、地域に寄付することで地域福祉や青少年育成に寄与しています。

●本等の寄付

ＧＢＳでは、アジアの子供たちの教育支援に貢献するシャンティ国際ボランティア会運営「もので寄付するプロジェクト」に参画し、不要になった本･CD･DVDなどを社内で募り、多数の本等を寄付しました。

●地域清掃活動への取り組み

札幌・新宿・横浜・福岡事業所・ＳＯＬＮＥＴ(福岡県北九州市)において、各事業所周辺の地域清掃活動に参加しました。ＳＯＬＮＥＴは、25時間ウルトラ駅伝＆スポーツＧＯＭＩ拾い大会に参加し、女性チームが見事優勝しました。



地域エコ活動

川崎市「第４回スマートライフスタイル大賞」奨励賞（省エネ貢献賞）を受賞

Ｃ＆ＣＢＳは、神奈川県川崎市の「第4回スマートライフスタイル大賞(※1)」に応募し、奨励賞を受賞しました。ＪＢグループとしての活動に加えて、Ｃ＆ＣＢＳが拠点を置く川崎事業所で実施しているサマータイムやNewカジュアル(※2)導入、ライトダウンなどの活動が評価されました。Ｃ＆ＣＢＳでは、「川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）」に登録し、川崎市内の企業や各団体との情報交換などを通して、ＪＢグループ内でできることを推進していきます。

表彰状

第四回スマートライフスタイル大賞
奨励賞（省エネ貢献賞）

C&Cビジネスサービス株式会社 様

貴社は、「第四回スマートライフスタイル大賞」において「エコ活動」－川崎より全国へ－JBグループ総合商社（C&C）が省エネに貢献し持続可能な社会の実現に寄与するものと認められましたのでここに表彰いたします

平成二十七年十一月二十七日

川崎市長　福田紀彦

(※1) 川崎市の「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略」に基づき、低炭素社会の構築を目指した取り組みを推進。その一環として、市民や市内事業者の節電・省エネなどをはじめとした環境配慮行動を実践する生活や事業活動の中での取り組みを表彰。

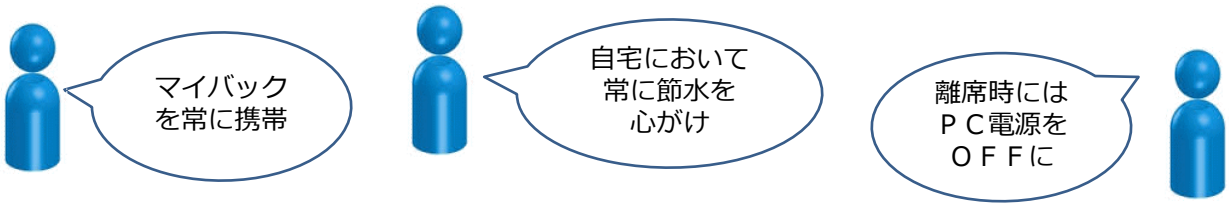
(※2) Ｃ＆ＣＢＳでは「Ｎｅｗカジュアル」とし、政府が推奨する「沖縄かりゆしウェア」「アロハシャツ」等の着用をＯＫとする制度を導入しました。

企業市民としての活動　社員とともに

ＪＢグループでは、社員とともに社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

Fun to Share

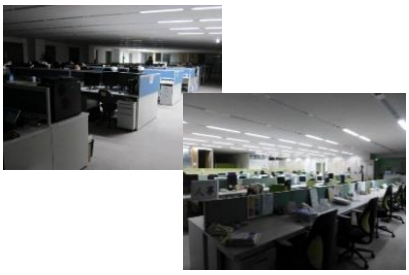
低炭素化社会の実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」にＪＢグループ各社が賛同登録しています。「会社」と「自宅」において環境負荷軽減に結びつく取組項目を設定し、具体的なアクションに取り組み、その知恵を社員みんなでシェアしています。



ライトダウン

「CO2削減／ライトダウンキャンペーン」の趣旨に賛同し、2009年度よりＪＢグループ内各事業所において七夕ライトダウンに継続参加したことをきっかけに、毎月１回「ＪＢグループ ライトダウン」を実施しました。2011年7月からは節電への取り組みとして、お昼休み消灯や蒲田事業所において毎日19時消灯を継続実施しています。

2015年度も、７月７日 PM7時(19:00)に各拠点にて実施しました。



業務で退社できない社員は一か所に集まりました

エコキャップ回収運動

2007年度よりペットボトルのキャップを回収しています。リサイクルすることでCO2の排出を抑え、回収したキャップを資源として売却し、その代金でワクチンを購入して途上国へ贈るエコ・キャップ回収運動を推進しています。

・2015年度実績

169,790個回収（CO2削減 1,337ｋｇ、ワクチン212名分）

募金活動

●ネパール大地震義援金募金

2015年４月に発生したネパール大地震に対して、日本赤十字社を通じて義援金20万円を寄付しました。

●ホルチン砂漠緑化募金

社員から集まった139,793円と、会社からの拠出金を合わせた計30万円(2ha分)を、NPO法人緑化ネットワークに寄付しました。この活動は2004年度より続けられ、延べ34ha(東京ドーム7.2個分)の緑化に貢献してきました。

●ユニセフ外貨募金

ＪＢグループでは、余った外貨コインを世界の子供たちのために役立てるユニセフの活動に賛同し、寄付を実施しています。2015年度総額は日本円に換算して約40,944円相当となりました。

これまでのＪＢグループの国内外への義援金寄付の功績に対して、日本赤十字社から表彰されました。

コーポレート・ガバナンス

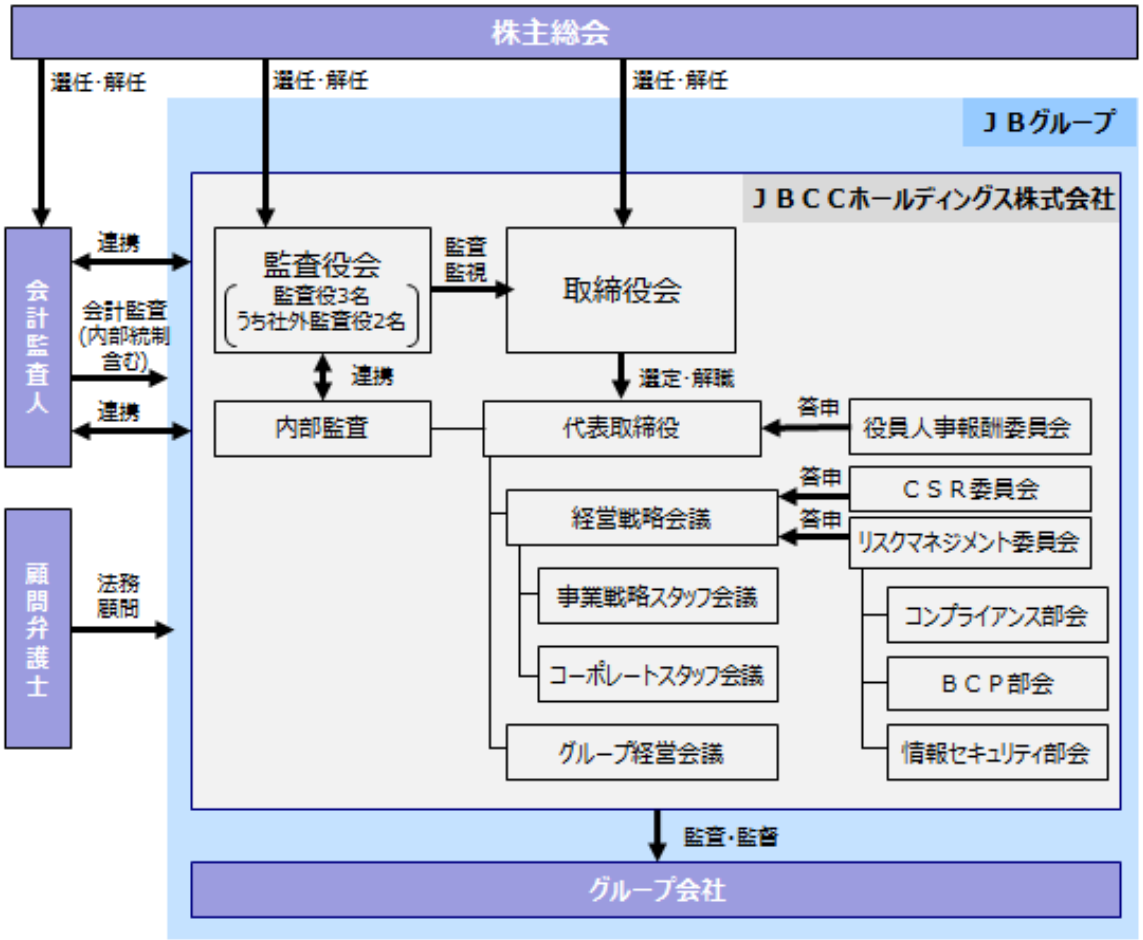
●コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

ＪＢグループの経営方針は、（1）透明性の高いグループ経営、（2）企業価値の増大、（3）日本のIT活用促進に貢献、の3つであり、ステークホルダー（お客様、株主、取引先、社員、社会）に対し、常に最高の価値を提供し、企業価値を継続的に向上できるよう努めています。

●コーポレート・ガバナンス体制

当社の取締役会は、2015年度より監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行についての検討を行っています。移行により業務執行と監督の分離を一層進め、ホールディングス体制のもと、より迅速な意思決定の実現を図ることができますし、社外取締役が過半数を占める監査等委員会により取締役会の監督機能を一層強化することで、更なるコーポレート・ガバナンスの強化をねらいとしています。

2015年度　体制図　2016年３月31日現在



内部統制

コンプライアンス経営を徹底し、役員および社員の意識づけを図るために「ＪＢグループ行動基準」を制定し、この実践を通じて高い倫理観を共有し、今後とも広く社会から信頼される企業体となるよう努めています。

マネジメント

リスク管理体制

事業の継続・発展を実現するための投資・戦略的提携などに関する事項については、コーポレートスタッフ（当社においてＪＢグループ全体にわたるスタッフ業務を司る部門）の各責任者が、所管部門に関する必要なリスク評価を行ったうえで提示する資料に基づき、取締役会もしくは経営戦略会議において最終的に評価・決裁します。日常業務における債権管理等については、「債権保全管理規程」および各種の取引先選定に係る基準など、業務遂行上のリスクを管理する規程に従い処理されます。

有事の対応については、職務分掌に基づく役割分担に応じコーポレートスタッフの各責任者が連携してこれにあたり、代表取締役がこれを統括します。経営戦略会議およびリスクマネジメント委員会は、平時において有事対応体制の整備を行います。

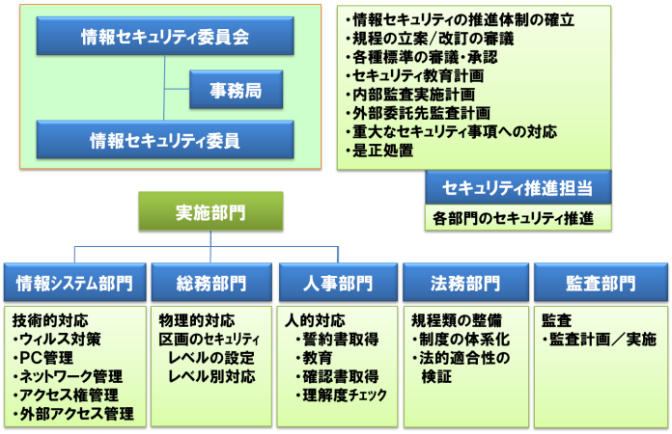
・コーポレート･ガバナンス報告書(2015年12月17日更新)は､下記ＵＲＬよりご確認いただけます。

http://www.jbcchd.co.jp/ir/pdf/jbcchd_cg.pdf

情報セキュリティの取り組み

ＪＢグループのすべての役員および従業員は、情報セキュリティに対する意識を持ち、その重要性を認識するため、計画的に適切な管理体制のもと、Ｗｅｂを用いたｅラーニング教育などを定期的に実施しています。

また、ＪＢグループ事業会社のＪＢＣＣ、iＧＵＡＺＵ、ＪＢＡＴ、ＧＢＳでは、Ｐマークの取得会社として、セキュリティ体制の充実を図っています。



●安否確認システム

ＪＢグループでは、万一の災害に備え、安否確認の対象となる災害が発生した場合を想定し、すべての役員および従業員が、年２回安否確認テストを実施しています。

2015年度は以下日程にて、訓練を行いました。

・大地震を想定した訓練配信：2015年7月28日(火)～29日(水)
・大地震を想定した訓練配信：2016年3月16日(水)～17日(木)

●コンプライアンス教育の実施

ＪＢグループでは、年１回すべての役員および従業員が、コンプライアンス・情報セキュリティの教育受講後に徹底のための確認テストを実施しています。

2015年度は７月より確認テストを行いました。

・行動基準､内部統制､ソーシャルメディアガイドライン確認テスト
・セキュリティ教育確認テスト

ISO14001認証取得

環境への影響を持続的に改善するため、環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO14001の認証登録を継続しています｡(2015年度 認定登録／ＪＢＣＣホールディングス、事業会社8月)2016年2月の外部審査においては、システム＆パフォーマンスが継続的に維持・改善されていることが認められ、ＪＢグループの環境マネジメントシステムが有効に機能していると評価されました。

また、ISOマネジメントシステム認証を長期にわたり継続していることに対して審査機関（日本環境認証機構）より、「ISO14001 10年継続賞」を2015年3月に受賞しました。

株主・投資家の皆さまとともに

株主・投資家の皆さまから信頼される企業であるために、タイムリーで的確な情報開示と利益還元に努めています。

タイムリーで的確な情報開示

●情報開示の基本方針

当社は証券取引法および東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」（以下、「適時開示規則」という）に則り、情報開示を行っています。
また、当社では上記法令・規則に該当しない情報についても、投資家の皆さまのご判断に役立つ情報については、可能な限り公平かつタイムリーな開示に努めています。

●情報開示の方法

証券取引法に則り、「有価証券報告書」、「半期報告書」、「臨時報告書」等を関東財務局長宛てに提出するとともに、当社の上場している東京証券取引所にも提出し、投資家の皆さまによる閲覧に供します。また、適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則にしたがい、東京証券取引所に事前説明を行った後、同取引所所管のTD net（適時開示情報伝達システム）を通じて報道機関他に公開しています。

情報発信

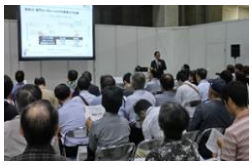
ＩＲ関連の新着情報をお届けするメールサービス「ＩＲメール配信」をはじめ、定時株主総会や決算説明会などの模様は、Ｗｅｂサイトでの動画配信を行い、タイムリーで的確な情報開示を心がけています。2014年１月より、ソーシャルメディアによる情報発信もスタートしています。
また、「株主さまアンケート」を年に一度実施し、皆さまからの貴重なご意見をＩＲ活動に活かして取り組んでいます。

【公式アカウント】
●Facebook
https://www.facebook.com/jbcchd
●Twitter
https://twitter.com/jbcchd

株主さま向け川崎事業所見学会

昨年に続き、株主さまアンケートでご要望の多かった事業所見学会を、2016年2月に川崎事業所で実施しました。3Dプリンターショールームなどの見学とともに、当社のCSR活動もご紹介し、当社への理解を深めていただく場となりました。
株主さまへの見学会の後には、機関投資家さま向けに「川崎施設見学会」を実施しビジネス概況を中心にセキュリティ／３Ｄ／ディストリビューション事業についてご紹介しました。

個人投資家さま向けＩＲイベント出展



個人投資家さま向けに、ＩＲイベントへの出展などを通じて積極的な活動を推進しています。2015年度も、8月に外部イベントに出展しました。

【日経IR・投資フェア2015】主催：日本経済新聞社
2015.8.28～29　来場者数：16,006名

株主の皆さまへの利益還元

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題のひとつと位置づけています。
剰余金の配当については、経営体質の強化と将来の事業展開を考慮しつつ、株主の皆さまへの安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

社員とともに

ＪＢグループでは、社員が働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいます。

働きやすい環境をめざして

●ポジティブアクション宣言

宣言日　2013/09/19

宣言します!

●社員が元気溌剌と働く風土創り　●女性の活躍を推進　●働き方の変革を推進

当社と事業会社各社（ＪＢグループ）はさまざまなお客様に信頼
される「グローバルなベストサービスカンパニー」を目指しており
多様な人材での対応がお客様満足につながると考えています。
人材の育成・活用のみならず働きやすい環境の整備も推進します。

ＪＢＣＣホールディングス株式会社　代表取締役社長　山田隆司

その実現のため具体的に

- 個々人の成長を支える自己啓発プログラムの充実により、プロフェッショナルの育成
- テレワーキング等、ワークライフバランスに留意した働き方の変革
- 女性のキャリアアップの機会と経営への参画を推進すること

に取り組みます!

女性の活躍を推進しています POSITIVE ACTION

ＪＢＣＣホールディングスでは、厚生労働省のポジティブ・アクション普及活動に賛同する企業として、情報ポータルサイトで、経営トップがその推進を宣言し、継続的な取り組みを行っています。

厚生労働省：
ポジティブ・アクション情報ポータルサイトより

人事データ　2016年３月31日現在

ＪＢグループでは、社員が元気ハツラツと働く風土づくりに取り組み、多彩な人材の育成・活用に加えて、働きやすい環境の整備を推進しています。また、短時間勤務や育児フレックス制度を設け、復職しやすい環境作りを実施しています。

●従業員

	13年度	14年度	15年度
男性(人)	2,116	2,128	1,892
女性(人)	495	558	532
合計	2,611	2,686	2,424

●役職登用状況

	男性(人)	女性(人)	女性比率(%)	外国人(人)
管理職	294	23	7.3	7
うち部長職以上	273	23	7.8	6
役員	64	3	4.5	0
うち執行役員	36	1	2.7	0

●障がい者雇用状況

	13年度	14年度	15年度
雇用人数(人)	21	29	29
雇用率(%)	1.08	1.50	1.64

●ワーク・ライフ・バランス

	13年度	14年度	15年度	
産休取得者数（人）	18	19	12	
育休取得者数（人）	9	20	13	
うち男性(人)	0	1	0	
育児休業復職率(%)	100	100	100	
有給休暇取得率(%)	―	―	62.9	(※)

(※)2015年度に付与した年次有給休暇日数(繰越日数を除く)
数字をもとに算出しています。

ＪＢグループでは、育児・介護による休職者の職場復帰プログラムを導入しています。eラーニングでのスキルアップなど、長期に職場を離れている社員のサポートに取り組んでいます。

ＪＢグループについて

会社概要

社　名	ＪＢＣＣホールディングス株式会社
創　立	1964年4月1日
所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア15Ｆ
資本金	4,687百万円
社員数	2,424名（2016年3月31日現在）
事業内容	純粋持株会社
ＵＲＬ	http://www.jbcchd.co.jp/

主なグループ会社（15社）

ＪＢＣＣ	ＪＢＣＣ株式会社
ＡＡＣ	アドバンスト・アプリケーション株式会社(※1)
ＣＩＳ	株式会社シーアイエス
ＳＯＬＮＥＴ	株式会社ソルネット
ＧＢＳ	ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社
ｉ－Ｌｅａｒｎｉｎｇ	株式会社アイ・ラーニング
ＪＢＳ	ＪＢサービス株式会社
ＪＢＣＮ	捷報（大連）信息技術有限公司
ＪＢＣＮ	佳報（上海）信息技術有限公司
ＪＢＴＨ	JBCC（Thailand）Co., Ltd.
ＪＢＳＧ	JBSG PTE. LTD.
ＪＢＰＳ	ＪＢパートナーソリューション株式会社
ｉＧＵＡＺＵ	株式会社イグアス
ＪＢＡＴ	ＪＢアドバンスト・テクノロジー株式会社
Ｃ＆ＣＢＳ	Ｃ＆Ｃビジネスサービス株式会社

(※1) ＡＡＣは2015年10月1日をもちまして、保有する全株式を
日本アイ・ビー・エム株式会社に譲渡いたしました。

主な３つの事業

情報ソリューション

ＩＴ活用に関するトータルサービス（コンサルティング、アプリケーション開発、システムインテグレーション、運用、保守、監視、アウトソーシング等）の提供を行っています。

ディストリビューション

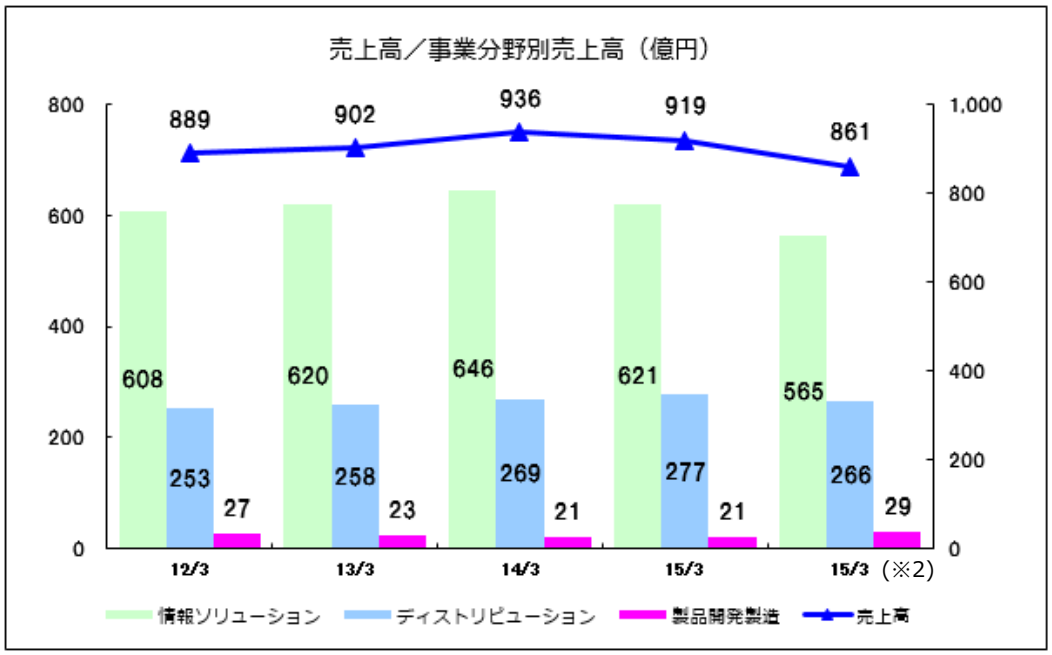
ビジネスパートナー様向けに、ハードウェア(サーバー、ＰＣ、プリンター等)、ソフトウェアおよびサービス等の販売を行っています。
また、法人向けにＩＴサプライ用品からオフィス文具用品といったサプライ品を販売するとともに、ＩＴを用いた調達代行を行っています。

製品開発製造

ＪＢグループ独自のソフトウェアソリューション、プリンティングシステム、セキュリティ関連ソリューション等の開発・提供の他、お客様に合ったオプティマイズハードウェアの提供を行っています。

業績

売上高/事業分野別売上高(連結)



(※2) 2015年4月1日付けにて、情報ソリューション事業のＲｅｅｄＲｅｘとＪＢＣＣのERP事業を、
製品開発製造事業のＪＢＡＴに、それぞれ吸収合併、吸収分割するグループ内組織再編を実施いたしました。

編集方針

ＪＢグループは、ベスト・サービスカンパニーとしてよき企業市民を目指し、社会および環境との調和を図り、日々活動しています。
当グループのＣＳＲに対する基本的な考え方や取り組みなどを、ステークホルダーの皆さまにわかりやすく、情報を開示するために、ＣＳＲレポートを発行しています。

●当レポートの内容は、ホームページに掲載しています。
http://www.jbcchd.co.jp/csr/report.html

報告範囲

対象期間：
2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）
対象範囲：
ＪＢＣＣホールディングスおよびグループ会社（15社）
発行時期：2016年5月
発行：ＣＳＲ委員会
お問い合わせ：ＪＢＣＣホールディングス株式会社 経営企画
TEL03-5714-5171 E-mail： ir@web.jbcc.co.jp

JBCCホールディングス株式会社
東京都大田区蒲田5-37-1　ニッセイアロマスクエア
TEL:03-5714-5171　http://www.jbcchd.co.jp/

ＪＢＣＣ(ＪＢＣＣ株式会社)	URL: http://www.jbcc.co.jp/	TEL:03-5714-5111（代）
ＣＩＳ(株式会社シーアイエス)	URL: http://www.cisjp.com/	TEL:052-261-2182（代）
ＧＢＳ(ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社)	URL: http://www.gbs.co.jp/	TEL:03-5216-5500（代）
ｉ－Ｌｅａｒｎｉｎｇ(株式会社アイ・ラーニング)	URL: http://www.i-learning.jp/	TEL:03-5623-7371（代）
ＪＢＳ(ＪＢサービス株式会社)	URL: http://www.jbsvc.co.jp/	TEL:03-6380-4700（代）
ＳＯＬＮＥＴ(株式会社ソルネット)	URL: http://www.solnet-dot.com/	TEL:093-671-7827（代）
ＪＢＣＮ上海（佳報（上海）信息技術有限公司）	URL: http://www.jbcchd.co.jp/jbcn/	TEL:03-5714-5171（代）
ＪＢＴＨ(JBCC(Thailand)　Co., Ltd.)	URL: http://www.jbcchd.co.jp/jbth/	TEL:03-5714-5171（代）
ＪＢＳＧ(JBSG PTE. LTD.)	URL: http://www.jbcchd.co.jp/jbsg/	TEL:03-5714-5171（代）
ＪＢＰＳ(ＪＢパートナーソリューション株式会社)	URL: http://www.jbps.co.jp/	TEL:03-5714-5180（代）
ｉＧＵＡＺＵ(株式会社イグアス)	URL: http://www.i-guazu.co.jp/	TEL:044-280-8500（代）
ＪＢＡＴ(ＪＢアドバンスト・テクノロジー株式会社)	URL: http://www.jbat.co.jp/	TEL:044-280-8600（代）
Ｃ＆ＣＢＳ(Ｃ＆Ｃビジネスサービス株式会社)	URL: http://www.ccbs.co.jp/	TEL:044-280-8511（代）

発行:2016年5月